

胃部内視鏡検査における 鎮痛剤（セデーション）検査について

Q 鎮静（セデーション）とはどういう意味ですか？

A セデーションとは、鎮静剤や鎮痛剤を使用して、意識レベルや痛みの感じ具合を低下させる処置をいいます。完全に眠ってしまう深い鎮静から、意識がある状態で苦痛の軽減を図るものまで、広い意味を含みます。当施設では安全性を考慮して「ペチジン塩酸塩」という鎮痛剤を使用します。「ペチジン塩酸塩」は弱い鎮静作用も持ちますが、鎮痛作用が主体です。完全に眠ることはなく、意識のある状態で検査を行いますが、検査に伴う苦痛緩和が期待されます。当院では狭い意味での鎮静と区別をするため、使用する薬剤を「鎮痛剤」と記載しています。

広い意味での鎮静剤	
狭い意味での鎮静剤	鎮痛剤 ●
完全に眠ることも可能	眠ることはない
呼吸が浅くなるリスクがある	副作用のリスクが下がる
ミダゾラムなど	ペチジンなど

当院では安全性を重視し副作用の少ない薬剤を使用。

眠ることはないがのどの痛みや違和感を軽減することが可能。

Q 完全に眠る鎮静剤を使用した胃内視鏡検査は行えますか？

A 当施設では完全に眠るような鎮静剤を使用した胃内視鏡検査は行っておりません。一般的に鎮静剤では検査中の意識はなく、呼吸が浅くなるリスクが問題となります。鎮静のリスクを抑え、検査中の苦痛を軽減する鎮痛剤で検査を受けることが可能です。

Q どういった時に鎮痛剤使用が勧められますか？

A 以前に内視鏡検査を受けたことがあり、鼻が痛い、鼻血が出たなどで鼻から検査が大変だった方、口から内視鏡検査をして、反射が強く大変だった方にお勧めします。

Q 痛みは全身なくなりますか？

A 点滴から投与しますので、全身に作用します。ただし、強い鎮痛効果を持つ薬剤ではありませんが、痛みが完全になるわけではありません。

Q 鎮痛剤使用時の胃内視鏡検査は鼻からもできますか？

A 鼻からは行っておりません。挿入経路は口からのみとさせていただきます。当院では経鼻内視鏡を基本としており、経鼻でも経口でも検査が大変だった方を主な対象として鎮痛剤投与を行っております。

Q 鎮痛剤投与の仕方は？

A 鎮痛剤は検査直前に必要量が点滴から入ります。それにより数分ほどで効果が出てくることが期待されます。効果が出た段階で検査を開始していくことになります。投与前から検査終了まで、モニター装置も使用しながら問題ないことを確認しています。

Q 鎮痛剤（ペチジン塩酸塩）を使用した際のデメリット・危険性を教えてください。

A 呼吸抑制や血圧低下、嘔気やふらつきといった副作用が出てくことや、まれに薬剤アレルギーがあり得ます。そのため、拮抗薬（効果を打ち消す薬）などを用意して備えております。また、副作用が問題となり得る病気をお持ちの方は、安全のため使用できない場合がございます。当日、医師の判断で**鎮痛剤が使用できない場合**もあります。鎮痛剤の影響によるふらつきなどを起こす可能性があるため、検査後は1時間休んでいただくこと、検査後のお出かけや仕事、運転（車・バイク・自転車）は控えていただくことが条件となります。

Q 痛み止めの効きが悪いと思うので、薬剤の量を多めに使ってもらうことは可能か？

A 受診者様の性別や体重によって薬剤量は決定しております。当施設での規定量を超えて投与することは、安全性の観点からお受けできません。以前に使用した経験があり、効きすぎたために減量したい、といった要望に対しては検討させていただきます。

Q 費用はいくらですか？

A 胃内視鏡検査代以外に別途 4,000 円（税抜）がかかります。

Q 検査は何科の医師が担当しますか？

A 検査は消化器内視鏡専門医が担当します。

● 参考資料 ●

～鎮痛剤を使用して内視鏡を受けられる方～

～鎮痛剤を使用した内視鏡検査を希望される方～



IMS<イムス>グループ 医療法人財団 明芳会

IMS Me-Life クリニック 池袋